

第一回国際生物学賞受賞者

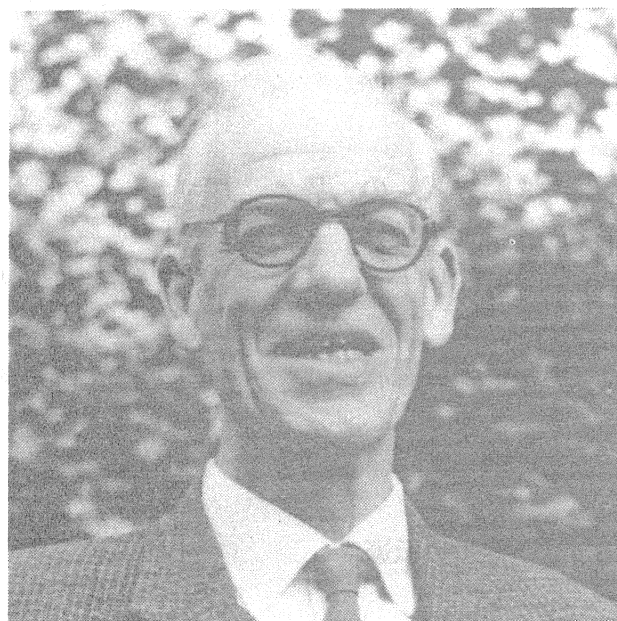
エドレッド・ジョン・ヘンリー・コーナー氏
Professor Edred John Henry Corner

生年月日 1906年1月12日

国 籍 イギリス

現住所 91 Hinton Way, Great
Shelford, Cambridge
CB2 5AH, England

現 職 ケンブリッジ大学名誉教授
ロンドン王立協会会員



経 歴 1928 ケンブリッジ大学シドニー・サセックス・カレッジ卒業
1929-45 シンガポール植物園副園長
1947-48 ユネスコ・ラテン・アメリカ科学協力局主任研究員
1949-65 ケンブリッジ大学植物学部講師, 准教授
1966-73 同大学教授 (熱帯植物学)
1973 同大学名誉教授

1930 Fellow of the Linnean Society of London

1955 Fellow of the Royal Society of London

勳章 1972 C.B.E. (第3級大英帝国勳章)

受賞歴 Darwin Medal of the Royal Society

Patron's Medal of the Royal Geographical Society

Gold Medal of the Linnean Society

Victoria Medal of Honour of the Royal Horticultural Society

Allerton Award of the Pacific Tropical Botanical Garden,

Hawaii

代表的 Wayside Trees of Malaya (1940)

著書 The Life of Plants (1964)

Checklist of Ficus in Asia and Australasia, with keys to
identification (1965)

The Natural History of Palms (1966)

The Seeds of Dicotyledons (1976)

学協会 American Society of Botany

通信会員 Royal Netherlands Botanical Society

学協会 Mycological Society of Czechoslovakia

名誉会員 Mycological Society of Japan

Botanical Society of Edinburgh

Association of Tropical Botany

研究業績

コーナー博士の研究は多岐に亘っており、対象とする生物は菌類と植物の二つの界を含み、手法としては分類学、形態学、生態学の各分野に及んでいる。

その他、自然保護に果たした功績の大きさも含め、コーナー博士が現在最高のナチュラリストであるという評価に異論を差しはさむ者はいないといえる。

博士の経歴にみられるように、熱帯のフィールドで長年研究を続け、熱帯植物の生活について該博な知識をもつコーナー博士は、これらを理解するための入門的な著述を多くものにしてしている。また、The Life of Plants (1964)などで提唱されたドリアン理論は被子植物の起原について大胆な推論を行ったものであり、植物の自然史について人々の関心を呼んだものである。

熱帯植物の生態については、すでに1930年代にマレー半島の湿地帯における調査を行っていたが、生育する種の対比について残されていた困難な問題をその後の研究の進歩を取り入れて解決し、1978年に公表した。

この分野の研究は、淡水域から汽水域にかけて、マングローブまでを含め、現在熱帯で非常に注目されているテーマである。

高等植物の分類学的研究では、熱帯において分類至難とされたイチジク属の分類を確立した業績が著名である。また、この研究にはじまり、昆虫と植物の

共進化の現象に着目し、独創的な調査を行ったが、この問題は熱帯植物で現在最も活発に研究されているテーマの一つである。

菌類の分類学的研究については、それまでの外部形態に基づく分類を脱却し、解剖学的形質を有効に取り上げ、かつ生態学的解析も加味して近代的な分類体系の確立に重要な貢献をした。

コーナー博士は、このように、多岐に亘る研究成果をあげてきたが、博士を語る上でもう一つ忘れてはならないことは、教育者としての業績である。イギリスで優れた植物学者を育てただけでなく、東南アジアの植物学を現在支えている中心的な研究者の多くは、コーナー博士の指導を受けたか、何らかの意味で大きな影響を受けた人達ばかりである。

なお、第2次大戦中のシンガポールの思い出を中心に述べられた「The Marquis : A Tale of Shonan-to」は、日本と英国の科学者が戦火をこえ、相協力して貴重な文化財の保護と共同研究に尽力した折の興味深い回顧談である。

これらの研究業績にみられるように、また、いくつかの受賞歴でも示されているように、コーナー博士の生物学における功績の大きなことは明らかといえる。